新年を迎えて

理事長　伊藤　祐一郎

あけましておめでとうございます。

会員の皆様方には、健やかに新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

当協会は、昨年、社団法人設立二十年を迎え、九月には、会員の皆様や多くの御来賓の御参加のもと、「磨けよ特産品、興せよ鹿児島！」というテーマで記念式典やフォーラム等を開催し、会員相互の連携がより一層強固なものとなったと考えております。

また、県産品の良さを広く県民に紹介し、その愛用を促進するため、「かごしまふるさと祭り」を同時開催いたしましたところ、多くのお客様が来場され、好評を得たところでございます。

さて、平成二十三年春の九州新幹線鹿児島ルート全線開業までいよいよ一年余りとなりました。ビジネスチャンスの増大や交流人口の増加などの開業効果を最大限に活かすためには、鹿児島という風土の下で育まれ、地域に根付いた生活文化としての様々な特産品に更に磨きをかけていく必要があります。消費者志向を的確にとらえた「安全で」「安心できる」「魅力あふれる」特産品を作り、国内はもとより、東アジアを中心とする海外に向けて更に積極的に売り込んでいきたいと考えております。

会員の皆様のより一層の御支援・御協力をお願い申し上げますとともに、本年が、素晴らしい年となりますことを心から祈念いたします。

全線開業までわずか1年
～九州新幹線鹿児島ルート全線開業に向けたモノづくり～

「特産品モニター求評会」から見えるもの

九州新幹線鹿児島ルート全線開業効果を最大限に活かすため、一会員が開業までに一(逸)新商品を開発する「3いち(逸)運動推進事業」の一環として、昨年9月、(株)山形屋で特産品モニター求評会を開催しました。23社の製造者が県内一般消費者100名から直接意見を聞きました。その内容から見えることは…。

〈モニターの意見〉

味

・味の種類がいくつかあるとよい。
・健康の面から甘さを控えた鹿児島らしい味を目指してほしい。
・食感の違う素材と組み合わせたり、家庭でできないような特別な味付けにしたらどうか。
・自宅で使っているが、今日飲んだ味の方がおいしかった。使い方や飲み方で味が違うことが分かり良かった。

パッケージ

・パッケージと商品のイメージが一致しない。何が入っているか分からない。
・「鹿児島県産」「国産」を強調した方がよい。
・味はよいが、中身が地味な色なので、パッケージをもう少しカラフルにした方がよい。
・今後、新幹線も全線開業するので、詰め合わせの箱を作って中身を選べるようにしたり、お土産用に使えるような紙袋も添えてはどうか。

量

・少し食べたいのに量が多く、買いづらい。
・個別に分けてお弁当用にしたら、単価が高くても購入する。
・内容量が同じでも、ボリューム感を感じさせる商品の方が良い。

安心感

・無添加で塩分が入っていないうえに品質もよいので、離乳食前後の子供にも安心して使える。
・地産地消の添加物のない食品が多く、購入したい気になった。
・卵を使っていないところ、材料のこだわりが良い。

利便性

・切ったり洗ったりするのが面倒なので、袋から出したらすぐに食べられるようなものがよい。
・とても簡単にだしがとれ、おいしかった。

全体として

・色々いい商品があるのに知らないものがとても多かった。PRを工夫すれば良いのでは…。
・無添加を押している企業が多かったが、今の時代は無添加が当たり前になっている気がするので、無添加＋αがあれば心に残ると思う。
・食べたことのある商品、また、初めての商品などいろいろあって、すごく勉強になった。これからの人生、生きていく中で楽しみながら商品を買って、人生がさらに楽しくなると思い、幸せを感じた。ありがとうございました。

〈モニターの構成〉

年　代	男性	女性	計
20代	2	16	18
30代	8	23	31
40代	3	13	16
50代	1	17	18
60代以上	4	13	17
計	18	82	100

職　業	男性	女性	計
会社員・公務員	12	25	37
自営業	2	6	8
専業主婦	0	30	30
アルバイト・パート	1	10	11
学生	0	6	6
無職	3	5	8
計	18	82	100

〈モニター求評会を終えて〉

メーカーの常識と消費者の商品に対する認識にギャップがあり、また、メーカーのこだわりや想いが現状のパッケージでは伝わりにくいようである。今後は消費者に作り手の想い、商品の特徴が伝わるような商品開発・パッケージ作りを心がける必要がある。

出展した企業からは、普段、売り場でのお客様からの意見とは異なる視点での意見もあり、今後もこのような求評会を継続開催してほしいとの意見が多かった。

モニターが考える「あったらいいな」と思う鹿児島の特産品

・県外や外国の人にプレゼントできるような、おいしくて特徴があり、日持ちするお菓子。
・びわ、桜島小みかん、サツマイモを使った若者向けのお菓子。
・手頃な価格で美味しく食べられるスイーツ。
・焼酎と柑橘類やマンゴーをあわせた果実酒。
・鹿児島のこだわりがつまった甘さを控えた食べ物。
・ブリ、カンパチの味噌漬け。
・落花生を使った商品。
・普通の味に加えて、激カラ味などインパクトの強い商品。
・「日本製はいい」というように、これだけは「鹿児島産」と言われるようなブランド化された品物。

RIGHT-NOW　企業の社会的責任(CSR)について考えよう

法令遵守だけで大丈夫？

最近よく耳にする「CSR」とは、「Corporate Social Responsibility＝企業の社会的責任」のこと。法の遵守、有用な製品・サービスの提供、利益の追求と株主配当、雇用の創出、納税といった基本的なことはもちろんのこと、「積極的な情報開示」「経営倫理の再確認」「自然環境への配慮」「誠実な顧客対応」「働きやすい環境」「地域社会への貢献」などが、現在、企業には期待されています。CSRに自主的に取り組むことは、長期的な企業の発展につながります。

●CSRの３つのメリット

・社会から長期的な信頼を得られる
・変化し続ける社会環境への適応力がつく
・企業ブランドが確立する

社会と共生できる本業を

CSRは、本業と別に行われる社会貢献(寄付活動など)・環境保全(ボランティアなど)のみでは十分と言えません。本業の中において、社会や環境へ配慮した製品・サービスを作り出すことにより、社会と共生できるものであることが望まれます。「売り手よし、買い手よし、世間よし」で知られる商売の心得「近江商人の三方よし」も、社会・環境・経済のバランスの取れた持続可能な事業のあり方を伝えています。小さな会社であっても、集まれば大企業以上の影響力を持ちます。また顔が見える関係だからこそ信頼が大切なのです。まずは考えることから始めてみませんか。

変わる消費者の意識

産地偽装や消費期限切れ原料の再利用など食の安全・安心にかかわる問題が世間を騒がせています。問題となった商品は店頭から撤去され、企業が自身を守るような態度を見せると、消費者は余計に不信感を募らせます。そのため業績不振、業務停止命令、廃業、解散に追い込まれる企業もありました。逆に石油暖房機の不具合対応で誠実な対応をした会社は、莫大な費用はかかりましたが、「信頼」というお金では手に入れられない大きな評価を得ることとなりました。

またインターネットの普及は匿名性の高さもあり、クレームや企業の内部問題が表に出やすい状況を作りました。それまで一企業や業界の常識・慣習だったことにも「社会の目」が光るようになり、企業活動に透明性の高さが求められるようになっています。ホームページなどを積極的に活用して情報発信・意見の収集に努め、開かれた経営を実現させましょう。

環境問題にどう取り組むか

国連気候変動枠組み条約を受けて、地球温暖化防止を目指し、世界が力を合わせて行動する体制を構築するための会議“COP15”が、昨年末にデンマークで開催されました。今後、企業活動への規制も厳しくなることが予想されます。ただ見方を変えると、CO_2の削減は電力・燃料の節約をはじめとする経費削減や、生産性の向上、技術革新へとつながります。またエコカーや消費電力の少ない電化製品、太陽電池、リサイクル製品など、新たな市場が開拓されるチャンスとしてとらえることができます。企業の取り組みは社員の意識を向上させ、ひいては社会からの厚い信頼となるでしょう。